

- 専攻科の修了認定に関する規則第2条第2号に基づく達成度評価基準は、下表の(A)(B)(C)の評価方法のうち、各専攻必修科目及び選択必修科目の修得とする。
- 複合型生産システム工学プログラムの履修及び修了に関する規則第4条第5号に基づく学習・教育目標の達成度評価基準は、下表のとおりとする。

学習・教育目標		関連する基準 1 (1) (a) ~ (h) の項目	評価方法	備考
(A) 技術者としての姿勢	<視野> 自己と世界の関係を理解し地球規模で物事を眺めることができる。 人文・社会科学及び外国語の学習を通して、世界の歴史や文化、社会のしくみの違いを認識し、幅広い視野から物事を考えることができる。また、社会における自分自身、世界における日本の位置付けを理解し、他者他国の立場から物事を考えることができる。	(a)	授業要覧で定めた外国語を含む人文・社会系25科目から3科目以上を修得する。 各科目の「この授業の達成目標」についてシラバス記載の評価方法で評価する。	
	<技術者倫理> 生産により生じる環境と社会への影響を認識し責任を自覚できる。 技術者としての倫理観を身に付け、人類の生産活動によって生じた環境の破壊や技術者のモラルの欠如によって生じた重大事故等の事例を通して、技術者の社会的責任を理解できる。	(b)	「技術者倫理」の単位を修得する。 「この授業の達成目標」についてシラバス記載の評価方法で評価する。	
	<意欲> 習得した知識・能力を超える問題に備えて、継続的・自律的に学習できる。 急速に進展する技術社会に対応できるよう、生涯にわたり自発的に学習する姿勢を身に付けて、知識・経験を継続的に積み上げることができる。	(e) (g)	「特別研究」に加え、「卒業研究」「創造工学」のうち1科目以上を修得する。 「創造工学」「卒業研究」で継続的・自律的な学習を行う基本的な姿勢を身につけさせた上で、「特別研究」において、中間発表、最終発表、特別研究論文を所定の成績評価表に従って評価する。	
(B) 基礎・専門の知識とその応用力	<基礎> 数学、自然科学および情報技術の知識を習得し、それを活用できる。 数学、自然科学および情報技術の知識として ・ 数学: 微分積分, 代数学, 微分方程式等に関する知識 ・ 自然科学: 一般物理, 一般化学に関する知識 ・ 情報技術: 情報基礎に関する知識 の内容を習得し、それを活用することができる。	(c)	授業要覧で定めた数学系科目から3科目以上、自然科学系科目から2科目以上、情報技術系科目から1科目以上を修得する。 各科目の「この授業の達成目標」についてシラバス記載の評価方法で評価する。	以下の外部評価も行う。 ・ 学士を取得する。
	<専門> 基礎工学および主となる専門分野に加えて、生産システムに関する専門工学(生産・素材・計測に関する工学ならびに知識に関する工学)の知識を習得し、それを活用できる。 「基礎工学」として ・ 設計・システム系科目 ・ 情報・論理系科目 ・ 材料・バイオ系科目 ・ 力学系科目 ・ 社会技術系科目 の内容を習得し、それを活用することができる。 「主となる専門分野の知識(実験技術を含む)」として ・ 機械: 機械工学に関する知識 ・ 電気・電子・情報: 電気工学・電子工学・情報工学に関する知識 ・ 化学・生物: 応用化学・生物化学・生物工学に関する知識 ・ 材料: 材料工学に関する知識 のいずれかの内容を習得し、それを活用することができる。 「生産システムに関する専門工学の知識」として ・ 生産に関する工学: 生産・製造方法等に関連する知識 ・ 素材に関する工学: 材料の種類、特性・性質等に関連する知識 ・ 計測に関する工学: 計測技術に関連する知識 ・ 知識に関する工学: 効率的な問題解決システムの構築または利用に関連する知識の内容を習得し、それを活用することができる。	(d)	主となる専門分野は、学科の卒業に必要な科目を修得する。 授業要覧で定めた基礎工学の「設計・システム系」、「情報・論理系」「材料・バイオ系」、「力学系」、「社会技術系」から各系1科目、計6科目以上を修得する。 授業要覧で定めた専門工学の「生産に関する工学」、「素材に関する工学」、「計測に関する工学」、「知識に関する工学」から各工学2科目、計8科目以上を修得する。 各科目の「この授業の達成目標」についてシラバス記載の評価方法で評価する。	
	<展開> 習得した知識をもとに創造性を発揮し、限られた時間内で仕事を計画的に進めまとめることができる。 主となる専門分野および生産システムに関する知識をもとに、解決すべき問題に対して創造性を発揮し、解決法をデザインできる。また、その解決法を計画的に実行し、限られた時間内でレポート、論文等にまとめることができる。	(c) (d) (e) (h)	「特別研究」に加え、「卒業研究」「創造工学」および実験・実習科目のうち2科目以上を修得する。 「卒業研究」「創造工学」および実験・実習科目で限られた時間内で仕事を計画的に進めまとめる能力を身につけさせた上で、「特別研究」において、中間発表、最終発表、特別研究論文を所定の成績評価表に従って評価する。	
(C) コミュニケーション能力	<発表> 自らの取り組む課題に関する成果・問題点等を論理的に記述・伝達・討論できる。 卒業研究論文、特別研究論文を論理的に記述することができる。与えられた時間内で、電子機器等を効果的に利用して卒業研究および特別研究の成果を口頭で発表でき、討論ができる。	(f)	「特別研究」に加え、「言語表現学Ⅰ」「言語表現学Ⅱ」「言語表現学特論」「卒業研究」から1科目以上を修得する。 「言語表現学Ⅰ」「言語表現学Ⅱ」「言語表現学特論」「卒業研究」で論理的な記述・伝達・討論の基礎能力を身につけさせた上で、「特別研究」において、中間発表、最終発表、特別研究論文を所定の成績評価表に従って評価する。	以下の外部評価も行う。 ・ 外部での研究発表。 ・ TOEIC 425 点相当。
	<英語> 英語による基本的なコミュニケーションができる。 専門領域に関する英語で書かれた文献の内容を理解することができる。卒業研究論文、特別研究論文の要旨を英語で記述することができる。また、特別研究の口頭での概要説明を経験している。	(f)	「技術英語Ⅰ,Ⅱ」「英語総合Ⅰ,Ⅱ」「特別研究」を修得する。 「特別研究」における<英語>の評価は、特別研究論文、最終発表を所定の成績評価表に従って評価する。 その他の科目は、各科目の「この授業の達成目標」についてシラバス記載の評価方法で評価する。	